

3. 滋賀県GAP推進方針と取組状況

1) 滋賀県GAP推進方針

平成23年3月
滋賀県農政水産部

はじめに

本県では、県産農産物の信頼性向上や安定的な取引の確保等を目指して、平成20年3月に「滋賀県GAP¹推進方針（以下、推進方針という。）」を定め、目標達成に向けて着実な推進に取り組んできました。

その結果、県内の大半の農協や一部の産地において、水稻を中心に各々の生産現場の状況に即したGAPが策定され、一定の進展が図られましたが、今後、さらなる取組の広がりが必要です。

一方、これからの農業には、地球温暖化防止対策や生物多様性の保全等、環境保全に配慮した農業生産活動が求められています。

また、農作業事故は、依然として減らず、その未然防止に向けた取組の強化が必要となっています。

さらに、平成21年12月に策定された、「滋賀県食の安全・安心推進条例²」では、生産者においては、より一層の食の安全・安心の確保に向けた取組を推進することが求められるようになりました。

これらのことから、さらなる農産物の安全性・品質の向上、琵琶湖等の環境保全、労働安全の確保等の実現に向け、GAPの導入促進と取組水準の高位平準化を目指し、推進方針を改定します。

1. 推進方針の趣旨

(1) 目 的

滋賀県産として出荷される農産物全てにおいて、その農業生産活動の各工程で、適切な管理や作業を実施し、記録・点検・評価による継続的な改善活動によって、農産物の安全性・品質の向上、琵琶湖等の環境保全、労働安全の確保等が図られることを目的として、推進方針を策定します。

(2) 期 間

平成23年度（2011年度）から平成27年度（2015年度）までの5年間とします。

なお、農業を取り巻く情勢や国の法令・方針の改正、目標の達成状況、生産現場の実情等を考慮しながら、必要に応じて見直すものとします。

2. 現状と課題

(1) 県内の取組状況

県内では、平成21年度末で、農協別では13農協で30品目（表1）、また生産組織別では、51組織（米・麦・大豆28組織、野菜・果樹等23組織）で生産現場の状況に即したGAPに取り組まれています。

表1. 年度別GAP取組農協数および取組品目数

年 度	H18	H19	H20	H21
GAP取組農協数	0	2	8	13
取組品目数	0	3	17	30
米、麦、大豆	0	2	12	27
野菜・果樹等	0	1	5	7

(2) 農産物の安全性・品質の向上

平成21年度滋賀県政世論調査によると、農業・水産業分野において、食の安全・安心と消費者の信頼を確保するための取組として、46%の方が「安全な農産物の生産活動の推進」が必要だと回答しています（図1）。

したがって、生産者においては、農産物の安全性を向上させるための一層の取組が必要です。

問

近年、国内でも食の安全・安心を脅かす問題が相次いで発生していますが、特に農業・水産業分野において、食の安全・安心と消費者の信頼を確保するためには、こういった取り組みが必要だと思いますか（〇は2つまで）。

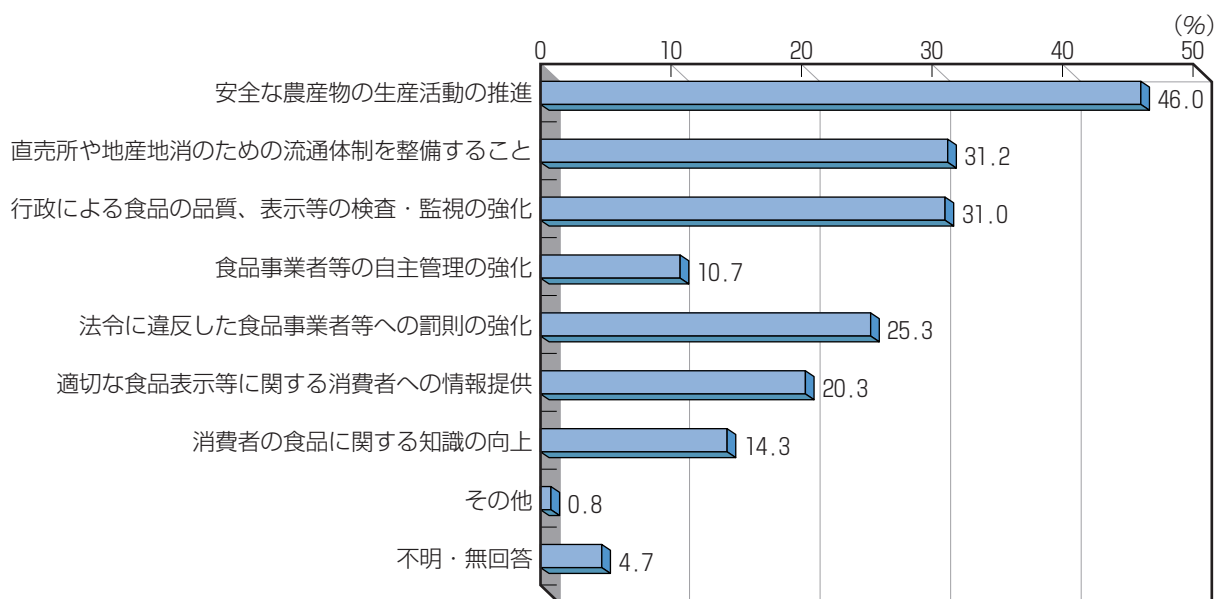


図1. 第42回滋賀県政世論調査結果（平成21年9月）

(3) 琵琶湖等の環境保全

本県では、より安全で安心な農産物を消費者に供給するとともに、環境と調和のとれた農業生産の確保を図り、本県農業の健全な発展および琵琶湖等の環境保全に資することを目的に、平成15年3月に「滋賀県環境こだわり農業推進条例」を制定し、環境こだわり農業の実践を推進しています。

平成21年度の環境こだわり農産物の栽培面積は13,149haに広がり、水稻や販売野菜では、作付面積の約3分の1の規模となっています（図2）。

今後も、環境こだわり農業の実践の拡大とともに、環境負荷の軽減に配慮した持続的な農業の実践が必要です。

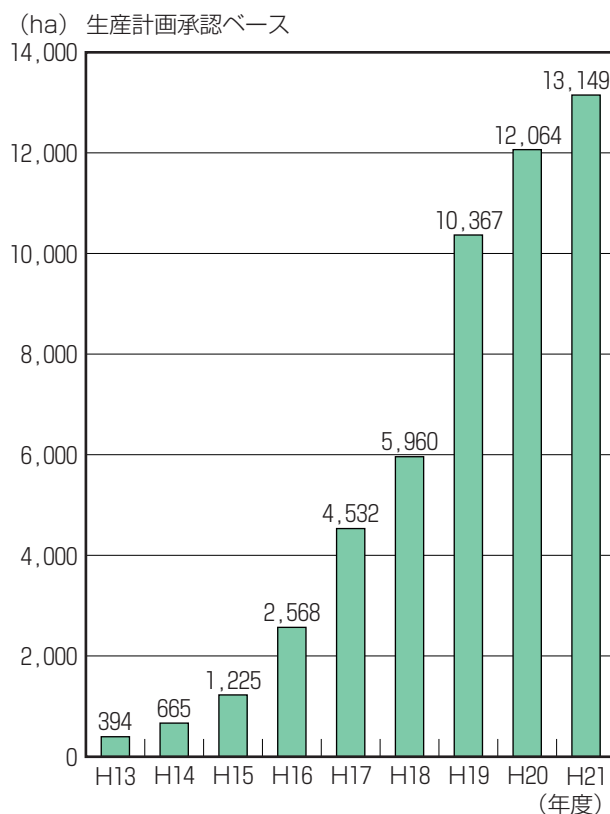


図2. 環境こだわり農産物の栽培面積の推移

(4) 労働安全の確保

農作業を安全に行い、農作業事故を防止することは、農業生産の振興や農業経営の安定を図る上で基本的かつ重要なことです。

本県でも毎年、農作業事故が発生しており（図3）、その大半は、農業機械の基本操作のミスや安全確認不足から起こっています。農作業事故を未然に防ぐために一層の対策が必要です。

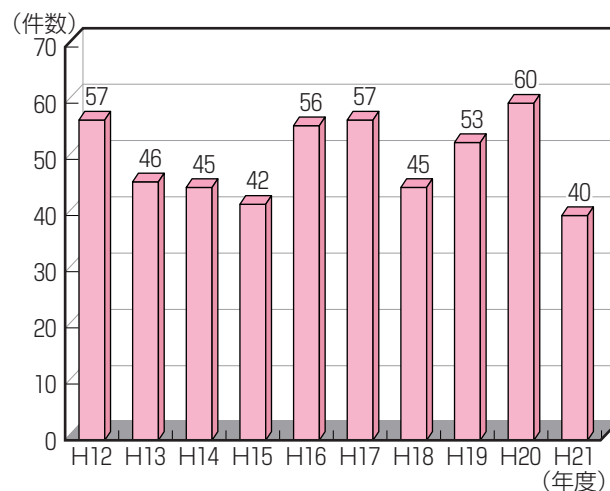


図3. 県内の農作業事故件数の推移
(過去10年間)

3. 基本方針

国が示す「農業生産工程管理（GAP）の共通基盤に関するガイドライン³」を基本に、琵琶湖・周辺環境への負荷削減技術等、県独自の取組を加えた「滋賀県版GAP」の内容を確保しつつ、生産現場の状況に即したGAPの普及・定着に向け、以下の基本方針を定めます。

- (1) 滋賀県産として出荷される農産物全てにおいてGAPが実践されることを目指し、GAPの導入を進めます。
- (2) 県は、指導者の育成に努め、生産者のGAPの取組に対して、適切な指導や助言を行います。

滋賀県版GAPの内容

- 農産物の安全性・品質の向上、労働安全の確保に向けた取組の実践
- 環境こだわり農産物認証制度に示されている「環境配慮技術（必須項目）」や「環境と調和のとれた農業生産活動規範⁴」の実践
- 地球温暖化防止対策に寄与する取組の実践

4. 推進方策

(1) 生産者および産地等への普及啓発

生産者および産地等に対し、啓発資料の配布、研修会の開催等を通じて、GAP導入の普及啓発を行います。

(2) 人材の育成

研修会の開催等により、指導者を育成し、生産者や産地等でのGAPの取組体制を強化します。

(3) 生産者および産地等における取組支援

生産者および産地等に対し、生産環境や栽培方法等、生産現場の状況に即したGAPの取組に対して適切な指導や助言を行います。

5. 推進体制

GAPを県内産地に普及させていくためには、生産者、農業団体、行政等の理解と協力を得ながら進めることが重要であるため、生産者、農業団体、行政等と相互に連携して、GAPの導入を進めます。

6. 成果目標

県内農産物の全ての主要産地において、GAPの導入を進めます。

項 目	現 状 (平成21年度)	目 標 (平成27年度)
GAPに取り組む生産組織数	51組織	150組織

1 Good Agricultural Practiceの略。適正農業規範あるいは農業生産工程管理等と訳されている。

2 本県が、食の安全・安心の確保に関し、基本理念を定め、関係者の責務等を明らかにするとともに、食の安全・安心の確保を推進するための仕組みを設けた条例。

3 食品安全、環境保全や労働安全に関する法体系や諸制度を俯瞰し、農業生産活動において、特に実践を奨励すべき取組を明確化したもの。

4 農業者が環境保全に向けて、最低限取り組むべき事項をとりまとめたもの。

2) 県内GAP取組状況

平成20年3月に定められた推進方針の目標「平成22年度までに全ての県内農協(16JA)でGAPが実践されること」は、その後の着実な推進により、達成できました。

平成23年3月の推進方針の改定で成果目標に掲げた「県内農産物の全ての主要産地において、GAPの導入を進めるために、平成27年度までに150組織でGAPに取り組むこと」に向け、さらなる推進を行っています。

平成25年度のGAP実践中の組織は126組織となっています。

		目標達成					新たな目標				
年度		H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27 (目標)
GAP取組農協数		0	2	8	13	16	16	16	16	…	16
品目別 取組 組織数	米、麦、大豆	0	2	12	23	37	43	45	56	…	61
	野菜・果樹等	0	1	5	7	37	40	53	70	…	94
	計	0	3	17	30	74	83	98	126	…	155

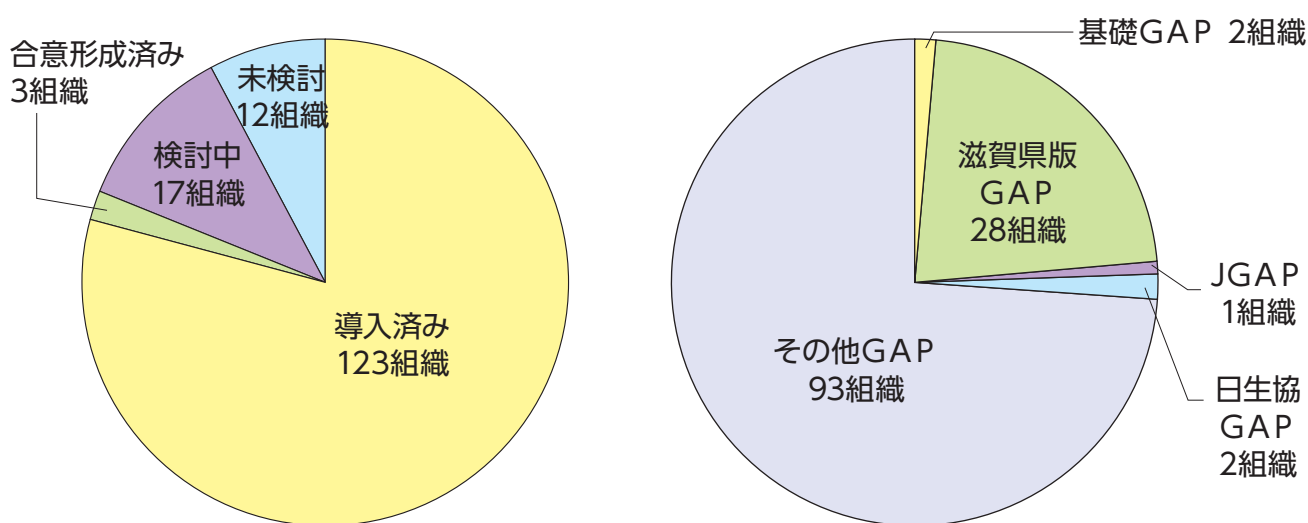
※産地改定等により、現在 155 組織⇨ 150 組織↑

残る産地のうち17組織は平成27年度に導入予定で、12組織が導入未検討です。

県内で展開されているGAPは、農協等の産地が独自に作成したGAP「その他GAP」が93組織と一番多く、次いで滋賀県版GAP28組織となっています。

「その他GAP」では、法令上の義務項目を満たしていないものが69組織あり、57組織はガイドラインの導入を検討していません。**滋賀県版GAPの内容を確保**※するよう改善に向けた取組を推進する必要があります。

※滋賀県GAP推進方針では、国が示す「農業生産工程管理（GAP）の共通基盤に関するガイドライン」（法令上の義務項目を含む特に奨励すべき事項、以下「ガイドライン」という）を基本に、県独自の取組を加えた「滋賀県版GAP」の内容を確保しつつ、生産現場の状況に即したGAPを普及させることを目標としています。

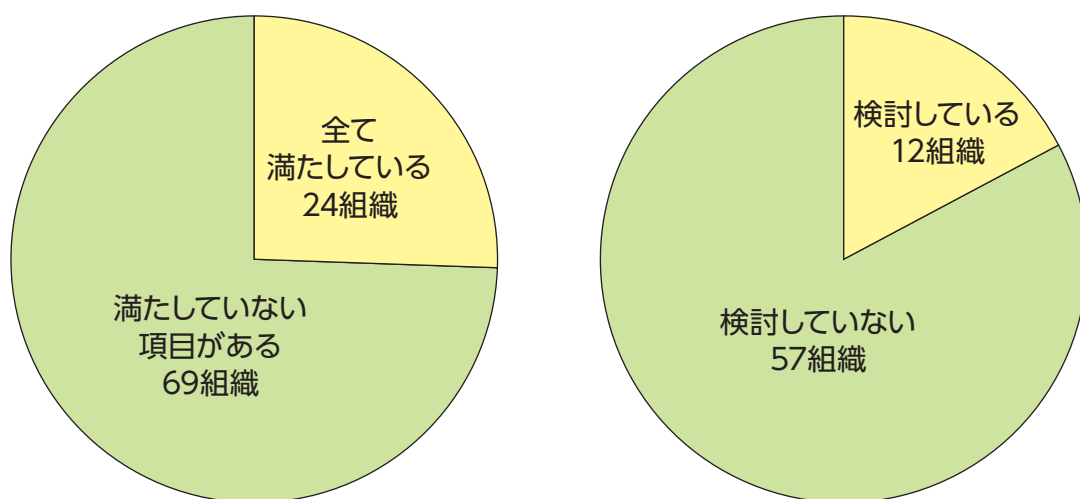


GAPの導入状況

対象: 滋賀県GAP推進方針の成果目標の産地
155組織

GAPの種類

対象: 導入済み123組織
+ 合意形成済み3組織



ガイドラインとの関係

(法令上の義務項目)
例: 農薬の安全・適正使用
対象: その他GAP 93組織

ガイドライン導入の検討

対象: 「導入済み+合意形成済み」のうち
ガイドラインの一部でも満たしていない
項目がある69組織

4. 滋賀県版GAP実践点検項目と解説

1) 滋賀県版GAP実践点検項目

滋賀県版GAP実践点検項目【米、麦、大豆】

※実際に使用する場合には、取り組みやすいよう並べ直したり、
自らの生産工程の問題や課題に即した内容にアレンジしてください。

○法令上の義務項目(必須)
○義務項目以外(重要)

区分	目的	取組事項	番号	点検項目	目	米	麦	大豆	関係法令
農産物の安全性・品質の向上	ほ場における環境衛生管理	ほ場環境の確認	1		周辺の廃棄物や有害物質等から、ほ場や用水への汚染がないか確認する。	○	○	○	
	農薬の安全・適正使用	無登録農薬の使用禁止	2		農薬を使用する前に、農林水産省の登録番号を確認する。	○	○	○	
		農薬の表示内容の確認と厳守	3		ラベルに記載されている最終有効年月を過ぎた農薬を使用しない。	○	○	○	
			4		農薬は、適用作物名や希釈倍数、使用時期、注意事項等ラベルに記載されている使用方法を守って使う。	○	○	○	農薬取締法 および 関係省令等
			5		防除器具の使用にあたり、事前にノズル等を点検する。	○	○	○	
		農薬使用前の防除器具等の点検、使用後の洗浄	6		防除器具の使用にあたり、タンク、ホース、ノズル等が十分に洗浄されているか確認する。	○	○	○	
			7		使用後は、タンク、ホース、ノズル等を十分に洗浄する。	○	○	○	
		農薬散布時における周辺作物へのドリフト（飛散）の回避	8		農薬を散布しようとするほ場周辺の栽培作物を確認し、必要に応じて、飛散が少ない形状の農薬、散布方法、散布器具等を選択する。	○	○	○	
	農薬、燃料等の保管管理	農薬、燃料等の適切な管理	9		農薬や肥料、燃料は、専用の保管場所や他の資材等と接触しないように保管する。特に毒劇物については、容器・貯蔵場所等へ表示する。	○	○	○	毒劇物取締法
	麦類のかび毒（DON、NIV）汚染の低減	麦類のかび毒（DON、NIV）汚染低減対策の実施	10		かび毒汚染を低減させるために、赤かび病の適期防除の実施や適期収穫の励行等対策を実施する。	○	○	○	
	異品種混入の回避	品種特性の保持、品種証明	11		種子を更新し、異品種の混入を回避する。	○	○	○	
	高品質・安定多収生産の実現	湿害の回避	12		作付地の団地化等、排水条件に留意するとともに、ほ場の状況に応じて排水対策の徹底に努める。	○	○	○	
	農産物の衛生的な取扱	異物混入の防止対策の実施	13		作業（収穫・乾燥・調製）中に喫煙や飲食をしない。	○	○	○	食品衛生法 および 関係省令
			14		作業（収穫・乾燥・調製）時に機械のネジや金属片、装飾品等が混入しないよう対策を実施する。	○	○	○	

滋賀県版GAP実践点検項目【米、麦、大豆】

※実際に使用する場合には、取り組みやすいよう並べ直したり、
自らの生産工程の問題や課題に即した内容にアレンジしてください。

○法令上の義務項目(必須)
○義務項目以外(重要)

区分	目的	取組事項	番号	点検項目	米	麦	大豆	関係法令
農産物の安全性・品質の向上	農産物の品質向上	異品種・異種穀粒混入の防止対策の実施	15	種子袋や育苗箱に品種名を明記し、品種の切り替えは、取り違い・他品種の種子が混入しないようにする。	○	○	○	
			16	田植時における品種の切り替えは、取り違いがないよう育苗の品種を確認する。	○			
			17	作業（収穫・乾燥・調製）時における品種や作物の切り替えは、事前にコンバイン・乾燥機等の清掃を徹底する。	○	○	○	農産物検査法および関係省令等
			18	出穂前後各3週間の湛水管理と土づくり資材の施用等のカドミウム吸収抑制対策を実施する。	○			
			19	適期を逃さずに刈り取る。	○	○	○	
		収穫後の適切な農産物の取扱	20	収穫後の籾（もしくは粒）を長時間放置せず、速やかに通風乾燥するか、乾燥施設に搬入する。	○	○	○	
			21	品質事故の防止対策の実施	○	○	○	
			22	適切な乾燥・調製の実施	○	○	○	食品衛生法および関係省令等
			23	倒伏や病害虫による被害籾、高水分籾（もしくは被害粒、高水分粒）は仕分けして、乾燥・調製等作業を行う。	○	○	○	
			24	散布液の適量調製	○	○	○	
琵琶湖等の環境保全	農薬による環境負荷の低減	水田からの農薬流出の防止対策の実施	25	農薬散布後1週間は落水、かけ流しをしない。	○			
			26	斑点米カメムシ類対策として、出穂2～3週間前と出穂期に畦畔除草を行う。	○			
			27	病害虫の発生源となる雑草や補植用余剰苗を除去する。	○			
		病害虫が発生しにくい栽培環境づくり	28	病害虫の発生源となる雑草や被害株、周辺雑草を除去する。		○	○	
			29	抵抗性品種や輪作体系等を導入する。	○	○	○	
		病害虫の発生状況に応じた防除	30	発生予察情報やほ場、その周辺における病害虫の発生状況を確認した上で防除する。	○	○	○	

滋賀県版GAP実践点検項目【米、麦、大豆】

※実際に使用する場合には、取り組みやすいよう並べ直したり、
自らの生産工程の問題や課題に即した内容にアレンジしてください。

◎法令上の義務項目(必須)
○義務項目以外(重要)

区分	目的	取組事項	番号	点検項目	米	麦	大豆	関係法令
琵琶湖等の環境保全	農薬による環境負荷の低減	化学合成農薬に頼らない防除技術の導入	31	温湯消毒、生物農薬の使用等、化学合成農薬を使わない防除を実施する。	○	○	○	
		農薬散布時における周辺等への配慮	32	農薬を散布する前に、近隣農家・住民に周知する。	○	○	○	
		肥料節減に向けた取組	33	土壤診断結果や施肥基準に基づく施肥を行う。	○	○	○	
		肥料による環境負荷の低減	33-2	堆肥を施用する場合は、外来雑草種子等の殺滅のため、適切に堆肥化されたものを施用する。	○	○	○	
	琵琶湖の水質保全		34	(畦畔等からの漏水防止対策) あぜ塗り、畦畔の補修、畦畔シートの設置等を行う。	○	／	／	
		水田からの濁水の流出防止	35	(浅水代かき) 水田ハローやロータリによる浅水代かきを実施する。	○	／	／	
			36	(田植え前の水管理) 田植え前の強制落水を行わない。	○	／	／	
			37	代かき～田植え後は、こまめに排水口や畦畔からの漏水がないことを確認する。	○	／	／	
	健全な土壌の確保	土づくりの実践	38	県が定める環境こだわり農産物栽培基準「堆肥その他の有機質資材の施用基準」に基づき、堆肥等の有機物を施用する。	○	○	○	
		土壌の管理	38-2	降雨や強風によって土壌が侵食を受け作土層が失われていくおそれがある場合には、土壌の侵食を軽減する対策を実施する。水田の場合は、用水路の管理や、畦畔崩壊防止対策も実施する。	○	○	○	
		農産物生産活動に伴う廃棄物の適正な処理の実施	39	農薬、肥料等の空容器や空袋、使用済みハウスビニール、期限切れ農薬等は、廃棄物処理業者への委託等により、適切に処理し、不適切な焼却は行わない。	◎	◎	◎	廃棄物処理法
			40	稲わら、麦わら、野菜くず等作物残さの堆肥、飼料、敷料等へのリサイクルまたはほ場への還元を励行する(病害虫のまん延防止のために処分が必要な場合などを除く)。	○	○	○	
	エネルギーの節減	施設・農業機械等の使用におけるエネルギー消費の節減対策の実施	41	エンジンオイルやベルト、チェーン、タイヤの空気圧等農業機械の定期的な点検や整備を実施する。	○	○	○	
			42	農業機械は、必要以上に高いエンジン回転で作業せず、負荷の状態に合った適正なエンジン回転で作業する。	○	○	○	
		温室効果ガス(メタン)の抑制	43	中干しを適期(茎数が目標穂数の8割になった時)に実施する(期間は7～10日間)。	○	／	／	
			44	県が推進する環境こだわり農業に取り組み等、環境と調和のとれた農業を実践する。	○	○	○	
	総合的な鳥獣被害対策	鳥獣被害対策の実施	44-2	放任果樹の除去や柵の設置等、鳥獣を引き寄せない取組を行う。	○	○	○	

滋賀県版GAP実践点検項目【米、麦、大豆】

※実際に使用する場合には、取り組みやすいよう並べ直したり、
自らの生産工程の問題や課題に即した内容にアレンジしてください。

◎法令上の義務項目(必須)
○義務項目以外(重要)

区分	目的	取組事項	番号	点検項目	米	麦	大豆	関係法令	
労働安全の確保	作業者の健康管理と事故防止	不健康な状態での作業の禁止	45	体調が悪い時や酒気を帯びている時は、農作業に従事しない。	○	○	○		
		安全に作業を行うための服装や保護具の着用、保管	46	農薬散布、機械作業、施設の補修等、安全に作業を行うための適切な服装やマスク等の保護具を着用する。	○	○	○		
	安全な作業環境の確保		47	農薬散布で着用した保護具は、洗浄し、他のものとは別に保管する。	○	○	○		
		危険な農作業の把握および農作業事故につながる恐れのある危険箇所の把握・作業環境の改善	48	危険な農作業の把握および農作業事故につながる恐れのある危険な箇所を把握し、危険箇所の表示やは場の出入口の傾斜を緩くする等、作業環境を改善する。	○	○	○		
		農業機械等を導入・使用する際の安全確認	49	農業機械、装置、器具の安全装備等の確認、点検整備	○	○	○		
	農業機械等の安全な利用	50	農業機械、装置、器具の適正な使用	○	○	○			
	農作業事故に対する備え	51	万一の農作業事故発生への備え	◎	◎	◎	労災保険法		
	農業現場における知的財産の適切な取扱	52	技術・ノウハウ（知的財産）の活用	◎	◎	◎	特許法		
	経営の改善	新品種育成者の権利保護	種苗登録品種の適切な利用	53	登録品種の種苗は、適切な手続きを経て利用する。	◎	◎	◎	種苗法
			は場の位置、面積等の記録・保存	54	は場の位置、面積等に係る記録を作成し、適切な期間保存する。	○	○	○	
情報の記録・保管		農業生産活動に関する情報の記録・保存	55	農薬、肥料の使用状況や播種、定植、収穫の作業実施日時等、農業生産活動に関する情報を記録し、適切な期間保存する。	○	○	○		
		農薬、肥料等の購入伝票の保存	56	農薬や肥料、種子、苗等の購入伝票、適切な期間保証書を保存する。	○	○	○		
		出荷等に関する情報の記録・保存	57	品名や出荷日、出荷量等、取引に関する内容を記録し、1～3年間（米穀等の取引等）に関しては原則3年間、その他の出荷に関しては流通実態に応じて1～3年間、それ以外は取引先からの情報請求に対応して）保存する。	◎	◎	◎	米トレーサビリティ法等	
特定の米穀についての保管・処理		用途限定米穀の適切な取扱	58	加工用米や新規需要米等は、明確に区分管理する。	◎				
			59	販売時は、包装等に用途を表示したり、定められた用途に使用されるよう契約書に記載する等の転用防止対策を実施する。	◎			食糧法	
生産工程管理の実施	食用不適米穀の適切な管理・処置	60	かびの付着や残留農薬等基準値を超過した米は、明確に区分管理し、廃棄等により、適切に処置する。	◎					
	生産工程管理の実施	61	GAPのPDCAサイクルを実践する。	○	○	○			
					該当項目数	61	51	50	

平成27年3月改定
平成24年3月改定
平成23年3月

滋賀県版GAP実践点検項目【施設野菜、露地野菜、果樹、花き、茶】

※実際に使用する場合には、取り組みやすいよう並べ直したり、
自らの生産工程の問題や課題に即した内容にアレンジしてください。

◎法令上の義務項目(必須)
○義務項目以外(重要)

区 分	目 的	取 組 事 項	番 号	点 検 項 目	野 菜 施 設	果 樹	花 き	茶	関係法令	
農 産 物 の 安 全 性 ・ 品 質 の 向 上	ほ場における環境衛生管理	ほ場環境の確認	1	周辺の廃棄物や有害物質等から、ほ場や用水への汚染がないか確認する。	○	○	○	○		
	適切な水の使用	使用する水源の確認と改善策の実施	1-2	使用する水の水源（水道、井戸水、開放水路、ため池）の確認と、水源の汚染がわかった場合には用途に見合った改善策を実施する（洗浄水など、収穫期近くや収穫後に可食部に直接かかる水に注意）。	○	○	/	/		
		無登録農薬の使用禁止	2	農薬を使用する前に、農林水産省の登録番号を確認する。	○	○	○	○	○	
	農薬の安全・適正使用	農薬の表示内容の確認と厳守	3	ラベルに記載されている最終有効年月を過ぎた農薬を使用しない。	○	○	○	○	○	
		農薬使用前の防除器具等の点検、使用後の洗浄	4	農薬は、適用作物名や希釈倍数、使用時期、注意事項等ラベルに記載されている使用方法を守って使う。	○	○	○	○	○	農薬取締法 および 関係省令等
			5	防除器具の使用にあたり、事前にノズル等を点検する。	○	○	○	○	○	
			6	防除器具の使用にあたり、タンク、ホース、ノズル等が十分に洗浄されているか確認する。	○	○	○	○	○	
	農薬、燃料等の保管管理	農薬散布時における周辺作物へのドリフト（飛散）の回避	7	使用後は、タンク、ホース、ノズル等を十分に洗浄する。	○	○	○	○	○	
			8	農薬を散布しようとするほ場周辺の栽培作物を確認し、必要に応じて、飛散が少ない形状の農薬、散布方法、散布器具等を選択する。	○	○	○	○	○	
		9	農薬や肥料、燃料は、専用の保管場所での農産物や他の資材等と接触しないように保管する。特に毒劇物については、容器・貯蔵場所等へ表示する。	○	○	○	○	○	毒劇物 取締法	
	10	作業者の衛生的な状態が保てるよう、手洗い場所やトイレ等の衛生設備を確保する。	○	○	○	○	○			
	作業者等の衛生管理	作業者の衛生管理の実施	11	調製・出荷等の作業においては、手洗いの励行や履物・手袋等の清潔さを保持する等、衛生管理を行う。	○	○	○	○	○	
		栽培・収穫・調製・運搬に使用する農機具・器具類等の衛生的な保管、取扱、洗浄	12	栽培・収穫・調製・運搬に使用する農機具（トラクター等）・器具類（はさみ、コンテナ等）は、常に手入れや洗浄を行い、衛生的に保管する。	○	○	○	○	○	
	設備・容器等の衛生管理	施設（栽培・調製・出荷・貯蔵）内の衛生管理の実施	12-2	養液栽培の場合は、培養液が汚染されないよう、器具類の洗浄を行う。	○	○	/	/	/	
			13	施設内は、常に整頓・清掃する。	○	○	○	○	/	
			14	製茶工場、製茶機械は茶期の前後に入念に清掃するとともに、常に整頓・清掃する。荒茶加工施設では、食品製造に直接関係のない目的で使用する場合は、「飲用適」の水を使用する。	/	/	/	/	○	
		15	施設内に廃棄物を保管する場合は、農産物に隣接しない場所で保管する。	○	○	○	○	○	○	
16	施設内への害虫侵入を防ぐ対策を行う。	○	○	○	○	○	○			
17	安全で清潔な包装容器の使用	17	出荷に使用する包装容器・資材は、農産物の安全性を考慮した素材を選択し、清潔に保管する。	○	○	○	○	○		

滋賀県版GAP実践点検項目【施設野菜、露地野菜、果樹、花き、茶】

※実際に使用する場合には、取り組みやすいよう並べ直したり、
自らの生産工程の問題や課題に即した内容にアレンジしてください。

◎法令上の義務項目(必須)
○義務項目以外(重要)

区分	目的	取組事項	番号	点検項目	野菜施設	果樹	花き	茶	関係法令
農産物の安全性・品質の向上	農産物の衛生的な取扱	異物混入の防止対策の実施	18	作業(収穫・調製・選別)中に喫煙や飲食をしない。	◎◎	◎◎	◎◎	◎	食品衛生法 および 関係省令
			19	作業(収穫・調製・選別)時に、使用する器具(包丁、手袋、タオル等)や装飾品等が混入しないよう対策を実施する。	◎◎	◎◎	◎◎	◎	
	農産物の品質向上	貯蔵・輸送時の適正な温度管理の実施	20	収穫後の農産物を貯蔵・輸送する際は、品質の劣化防止のため、適正な温度管理を行う。必要に応じて予冷等を行う。	◎◎	◎◎	◎◎	◎	
		凍霜害防止対策の実施	21	凍害、霜害等の恐れのある地域・時期では、防霜施設等の稼働点検や気象情報等に留意する等、凍霜害防止対策を実施し、適切な被害防止に努める。	◎◎	◎◎	◎◎	◎	
		りんご等果実におけるかび毒(パツリン)汚染低減対策の実施	21-2	かび毒汚染を低減させるために、傷果発生防止のための丁寧な収穫・出荷、選果段階における腐敗果の除去を行う。	／	／	／	／	
琵琶湖等の環境保全	農薬による環境負荷の低減	散布液の適量調製	22	散布面積や作物の生育状況、ラベルの記載内容を確認し、散布に必要な量だけを調製する。	◎◎	◎◎	◎◎	◎	
		病害虫が発生しにくい栽培環境づくり	23	病害虫の発生源となる雑草の除去を行う。	◎◎	◎◎	◎◎	◎	
		病害虫の発生状況に応じた防除	24	抵抗性品種や輪作体系等を導入する。	◎◎	◎◎	◎◎	◎	
			25	発生予察情報やほ場、その周辺における病害虫の発生状況を確認した上で防除する。	◎◎	◎◎	◎◎	◎	
			26	化学合成農薬に頼らない防除技術の導入	◎◎	◎◎	◎◎	◎	
	肥料による環境負荷の低減	農薬散布時における周辺等への配慮	27	農薬を散布する前に、近隣農家・住民に周知する。	／	◎◎	◎◎	◎	
		被覆を要する農薬(くん蒸剤等)の揮散防止	28	くん蒸剤を使用する場合は、ガス漏れのないよう完全に被覆する。	◎◎	◎◎	◎◎	◎	
		肥料節減に向けた取組	29	土壌診断結果や施肥基準に基づき施肥を行う。	◎◎	◎◎	◎◎	◎	
		適切な堆肥化	29-2	堆肥を施用する場合は、外来雑草種子等の殺滅のため、適切に堆肥化されたものを施用する。	◎◎	◎◎	◎◎	◎	
		土づくりの実践	30	県が定める環境こだわり農産物栽培基準「堆肥その他の有機質資材の施用基準」に基づき、堆肥等の有機物を施用する。また、野菜・果樹に堆肥を施用する場合は、高温で発酵された堆肥を施用する。	◎◎	◎◎	◎◎	◎	
廃棄物の適正な処理	健全な土壌の確保	土壌の管理	30-2	降雨や強風によって土壌が侵食を受け作土層が失われていくおそれがある場合には、土壌の侵食を軽減する対策を実施する。	◎◎	◎◎	◎◎	◎	廃棄物処理法
		農業生産活動に伴う廃棄物の適正な処理の実施	31	農薬、肥料等の空容器や空袋、使用済みハウスビニール、期限切れ農薬等は、廃棄物処理業者への委託等により、適切に処理し、不適切な焼却は行わない。	◎◎	◎◎	◎◎	◎	
	健全な土壌の確保	作物残さ等の有機物のリサイクルの実施	32	稲わら、麦わら、野菜くず等作物残さの堆肥、飼料、敷料等へのリサイクルまたはは場への還元を励行する(病害虫のまん延防止のために処分が必要な場合などを除く)。	◎◎	◎◎	◎◎	◎	

滋賀県版GAP実践点検項目【施設野菜、露地野菜、果樹、花き、茶】

※実際に使用する場合には、取り組みやすいよう並べ直したり、
自らの生産工程の問題や課題に即した内容にアレンジしてください。

◎法令上の義務項目(必須)
○義務項目以外(重要)

区分	目的	取組事項	番号	点検項目	野菜 施設	露地	果樹	花き	茶	関係法令
琵琶湖等の環境保全	エネルギーの節減	施設・農業機械等の使用におけるエネルギー消費の節減対策の実施	33	施設・農業機械等の定期的な点検・整備を実施する。	○	○	○	○	○	
			34	農業機械は、必要以上に高いエンジン回転で作業せず、負荷の状態に合った適正なエンジン回転で作業する。	○	○	○	○	○	
			35	温室内の保温対策（内張りやカーテン等の隙間の点検・補修等）を実施する。	○	○	○	○	○	
			36	暖房機器等の使用に当たっては、常に省エネを意識する。	○	○	○	○	○	
			37	温室内の各所の温度を測定し、ダクトの位置やバランスを調整し、温度ムラを小さくする。	○	○	○	○	○	
			38	環境と調和のとれた農業生産活動の実践	○	○	○	○	○	
			39	セイヨウオオマルハナバチの飼養に関する許可の取得（更新）及び適正な飼養管理の実施	◎	◎	◎	◎	◎	外来生物法
労働安全の確保	総合的な鳥獣被害対策	鳥獣被害対策の実施	39-2	放任果樹の除去や柵の設置等、鳥獣を引き寄せない取組を行う。	○	○	○	○	○	
			40	不健康な状態での作業の禁止	○	○	○	○	○	
	安全な作業環境の確保	安全に作業を行うための服装や保護具の着用、保管	41	農薬散布、機械作業、施設の補修等、安全に作業を行うための適切な服装やマスク等の保護具を着用する。	○	○	○	○	○	
			42	農薬散布で着用した保護具は、洗浄し、他のものとは別に保管する。	○	○	○	○	○	
	農業機械等を導入・使用する際の安全確認	危険な農作業の把握および農作業事故につながる恐れのある危険箇所の把握・作業環境の改善	43	危険な農作業の把握および農作業事故につながる恐れのある危険な箇所を把握し、危険箇所の表示や作業環境を改善する。	○	○	○	○	○	
			44	農業機械、装置、器具の安全装備等の確認、点検整備	○	○	○	○	○	
	農業機械等の安全な利用	農業機械、装置、器具の適正な使用	45	農業機械の機能、使用上の注意事項、使用時の危険回避方法等、取扱説明書をよく理解した上で操作する。	○	○	○	○	○	
			46	万一の農作業事故発生への備え	◎	◎	◎	◎	◎	労災保険法

滋賀県版GAP実践点検項目【施設野菜、露地野菜、果樹、花き、茶】

※実際に使用する場合には、取り組みやすいよう並べ直したり、
自らの生産工程の問題や課題に即した内容にアレンジしてください。

◎法令上の義務項目(必須)
○義務項目以外(重要)

区分	目的	取組事項	番号	点検項目	野菜施設	果樹	花き	茶	関係法令
経営の改善	農業現場における知的財産の適切な取扱	技術・ノウハウ（知的財産）の活用	47	特許技術は、適切な手続きを経て活用する。	◎	◎	◎	◎	特許法
	新品種育成者の権利保護	種苗登録品種の適切な利用	48	登録品種の種苗は、適切な手続きを経て利用する。	◎	◎	◎	◎	種苗法
	ボイラーの適正使用	ボイラー使用時の登録・主任の設置	48-2	ボイラー（簡易ボイラーは除く）の設置・使用に必要な届け出、取扱作業主任者の設置を行う。	／	／	／	◎	ボイラー および 圧力容器 安全規則
	情報の記録・保管	は場の位置、面積等の記録・保存	49	は場の位置、面積等に係る記録を作成し、適切な期間保存する。	○	○	○	○	
		農業生産活動に関する情報の記録・保存	50	農薬、肥料の使用状況や播種、定植、収穫の作業実施日時等、農業生産活動に関する情報を記録し、適切な期間保存する。茶の取組時は、ボイラー（簡易ボイラーは除く）の定期自主検査記録も3年間保存する。	○	○	○	○	
		農薬、肥料等の購入伝票の保存	51	農薬や肥料、種子、苗等の購入伝票、保証書を適切な期間保存する。	○	○	○	○	
		出荷等に関する情報の記録・保存	52	品名や出荷日、出荷量等、出荷に関する情報を記録し、適切な期間（出荷に関しては流通実態に応じて1～3年間、それ以外は取引先からの情報請求に対応して）保存する。	◎	◎	◎	◎	食品 衛生法 および 関係省令
	生産工程管理の実施	生産工程管理の実施	53	GAPのPDCAサイクルを実践する。	○	○	○	○	
	該当項目数				56	53	58	54	52

平成27年3月改定
平成24年3月改定
平成23年3月

2) 滋賀県版GAP実践点検項目の解説

ここでは、滋賀県版GAP実践点検項目の内容について、解説します。

(点検項目の欄に、対象となる品目名を表記(施設野菜は【施設】、露地野菜は、【露地】と略))

(1) 農産物の安全性・品質の向上

目 的	ほ場における環境衛生管理
取組事項	ほ場環境の確認
点検項目	周辺の廃棄物や有害物質等から、ほ場や用水への汚染がないか確認する。【全品目】
解 説	ほ場の過去の使用履歴や周辺環境を把握し、廃棄物や有害物質等が放置されていないか確認します。また用水に、重金属や化学物質、病原微生物等の農産物に危害を及ぼす要因がないか、把握に努めます。汚染を認めた場合は、速やかに対応します。 参考情報 ●「土壌汚染の特徴」 (環境省 https://www.env.go.jp/water/dojo/guide/pdf/mat01.pdf) ●「野菜の衛生管理に関する情報」 (農林水産省 http://www.maff.go.jp/j/syouan/nouan/kome/k_yasai/index.html)

目 的	適切な水の使用
取組事項	使用する水源の確認と改善策の実施
点検項目	使用する水の水源(水道、井戸水、開放水路、ため池)の確認と、水源の汚染がわかった場合には用途に見合った改善策を実施する。【施設、露地、果樹】
解 説	微生物の汚染による食中毒を防ぐため、かん水、薬剤散布、洗浄水などへ使う水が水道、井戸水、開放水路、ため池等のいずれなのか水源の確認をします(水道や地域の保健所等が飲用水と認めた水を使用するのが望ましい)。地表水や地下水の場合、その水路やバルブ等に家畜ふん堆肥や動物ふん等の汚染がないか、定期的に(大雨等の後も)確認します。汚れていた場合は清掃し、今後汚染されないよう対策をとります。水の安全を確認してから使用してください。 ※特に生食物の場合は、収穫期近くや収穫後に可食部に直接かかる水に注意する。 参考情報 上記と同じ

目 的	農薬の安全・適正使用
取組事項	無登録農薬の使用禁止
点検項目	農薬を使用する前に、農林水産省の登録番号を確認する。【全品目】
解 説	農薬登録を受けていない農薬の使用は、「農薬取締法」で禁止されており、国内での使用が認められた農薬は必ず登録されています。使用する前に、農林水産省の登録があることを確認し、登録された農薬を使います。 ただし、古い農薬には登録番号があっても使用禁止農薬が含まれている場合もあるので、使用してもいいかどうか、下記ホームページ等で確認してください。 参考情報 ●「販売禁止農薬・使用禁止農薬について」 (滋賀県 http://www.pref.shiga.lg.jp/g/kodawari/nouyaku/hannbaikinnsi.html) ●「農薬疑義資料コーナー(無登録農薬の疑いのある資料)」 (農林水産省 http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_sizai/index.html)



(1) 農産物の安全性・品質の向上（続き）

目 的

農薬の安全・適正使用

取組事項

農薬の表示内容の確認と厳守

点検項目

ラベルに記載されている最終有効年月を過ぎた農薬を使用しない。【全品目】

解 説

農薬の有効期間は、メーカーが農薬の品質を保証する期間であり、各製剤に関する安定性等のデータからメーカーが独自に定めています。農薬のラベルに記載されている最終有効年月までに使用します。

点検項目

農薬は、適用作物名や希釈倍数、使用時期、注意事項等ラベルに記載されている使用方法を守って使う。【全品目】

解 説

農薬を効果的に、かつ安全に使用するための基本は、ラベルをよく読んで理解することです。

農薬の安全に関しては数多くの試験研究が行われ、それらの結果をもとに、国の審査を経て、適用作物や使用方法、注意事項が決められています。安全な農作物の生産のために、ラベルどおり使用します。

ラベル表示事項の例

表 示 事 項	表 示 内 容	備 考
登録番号	農林水産省に登録されている番号	登録番号のないものは農薬として使用・販売できません。
成分	有効成分の化学名と含有量、その他成分と含有量(通常は含有率%表示)	商品名が異なっても同じ有効成分のものがあります。農薬の有効成分を確認し、使用作物での有効成分の総使用回数を守ることが必要です。
毒物、劇物の表示	毒物及び劇物取締法に基づき、該当するものは下記のように表示します。 医薬用外毒物 医薬用外劇物	毒物、劇物に該当する農薬の購入に当たっては、法律に基づき、譲受書に記名または署名し、押印してください。
安全使用上の注意	着用すべき防護具、魚介類などに対する注意、輸送、保管・廃棄・使用上の注意など	特に注意を要する事項は、注意喚起マークが表示されています。 例： マスク着用 河川流出禁止 (魚介類注意)
最終有効年月	品質を保証する期限	容器に巻きつけた長尺ラベルでは、裏面を見落とさないようにしましょう。
作物名・適用場所	使用できる作物名 除草剤の一部では、使用できる場所	記載されている以外の作物には使用してはいけません。
希釈倍数、散布量、使用量	希釈倍数、散布量、使用量	表示以上の濃度・量で使用してはいけません。
使用時期 総使用回数	収穫前日数と総使用回数	除草剤等で効果や薬害面から使用時期が制約される場合は、実際に使用できる時期が表示されます。

参考情報

●「農薬を使用する者が遵守すべき基準を定める省令」

(農林水産省 http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_kaisei/k_kizyun.html)

(1) 農産物の安全性・品質の向上(続き)

目 的	農薬の安全・適正使用
取組事項	農薬使用前の防除器具等の点検、使用後の洗浄
点検項目	防除器具の使用にあたり、事前にノズル等を点検する。【全品目】 防除器具の使用にあたり、タンク、ホース、ノズル等が十分に洗浄されているか確認する。【全品目】 使用後は、タンク、ホース、ノズル等を十分に洗浄する。【全品目】
解 説	防除器具の不具合は、農薬の過剰吐出など、不適正散布につながるので、正しく動かさうか点検します。 また防除器具に残った農薬を、誤って別の農作物に散布してしまうことのないよう、防除器具の使用前は、タンク、ホース、ノズル等が十分に洗浄されているか確認し、使用後も十分に洗浄します。 参考情報 ●「農薬コーナー」 (農林水産省 http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html)
取組事項	農薬散布時における周辺作物へのドリフト(飛散)の回避
点検項目	農薬を散布しようとするほ場周辺の栽培作物を確認し、必要に応じて、飛散が少ない形状の農薬、散布方法、散布器具等を選択する。【全品目】
解 説	農薬飛散により、意図しない農薬残留で、農産物が出荷停止になってしまうことが懸念されます。 風のある時は避け、飛散しにくい散布方法・剤型、時間帯に注意するなど、ドリフト対策を行います。 ノズルの向きにも注意し、最小限の区域で散布します。 また、前作に使用した農薬が残留し、農産物が出荷停止になった例もあるので、作付時期等にも注意が必要です。 参考情報 ●「残留農薬のポジティブリスト制度と農薬のドリフト対策について」 (農林水産省 http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_drift/)



(1) 農産物の安全性・品質の向上（続き）

目 的	農薬、燃料等の保管管理
取組事項	農薬、燃料等の適切な管理
点検項目	農薬や肥料、燃料は、専用の保管場所で農産物や他の資材等と接触しないように保管する。特に毒劇物については、容器・貯蔵場所等へ表示する。 【全品目】
解 説	農薬や肥料、燃料が乱雑に同じ場所で保管されていると、誤使用するリスクが生じます。納屋やハウスなどに放置せず、施錠できる部屋や保管庫に置き、盗難や誤飲の防止対策を行います。 また毒劇物は、容器・貯蔵場所等へ 医薬用外毒物、医薬用外劇物 と表示します。 参考情報 ●「毒物及び劇物取締法」 (電子政府の総合窓口 http://law.e-gov.go.jp/htmldata/S25/S25HO303.html)



目 的	麦類のかび毒（DON、NIV）汚染の低減
取組事項	麦類のかび毒（DON、NIV）汚染低減対策の実施
点検項目	かび毒汚染を低減させるために、赤かび病の適期防除の実施や適期収穫の励行等対策を実施する。 【麦】
解 説	麦類は、開花期以降に降雨が多いと、品質低下や収穫量の減少の原因となる赤かび病が発生しやすく、その病原菌が産生するかび毒のデオキシニバレノール（DON）・ニバレノール（NIV）※汚染がおこる可能性があります。 DON、NIVは加工や調理工程においても完全に除去できないため、生産段階において、その汚染を防止することが重要ですので、赤かび病の適期防除の実施や、適期収穫の励行など対策を実施します。 ※デオキシニバレノール（DON）、ニバレノール（NIV） ・・・赤かび病の病原菌であるフザリウム属のかびが産生するかび毒のこと。 参考情報 ●「食品のかび毒に関する情報」 (農林水産省 http://www.maff.go.jp/j/syouan/seisaku/risk_analysis/priority/kabidoku/)

(1) 農産物の安全性・品質の向上（続き）

目 的	異品種混入の回避
取組事項	品種特性の保持、品種証明
点検項目	種子を更新し、異品種の混入を回避する。【米、麦、大豆】
解 説	種子更新は、品種の特性の維持、農産物の品質向上の観点から重要です。 また、消費者や実需者の信頼確保につながるので、保証票などの記録は残しておきます。 

目 的	高品質・安定多収生産の実現
取組事項	湿害の回避
点検項目	作付地の団地化等、排水条件に留意するとともに、ほ場の状況に応じて排水対策の徹底に努める。【麦、大豆】
解 説	麦、大豆は湿害を受けやすい農作物です。湿害は、多量の降雨、ほ場への水の侵入・滞留や土壌水分の上昇等により発生します。 本県は降水量が多く、水田での栽培も多いため、湿害が発生しやすい環境となっており、収量、品質の低下が問題となっています。個々のほ場の実態をよく把握し、排水の良好なほ場の選定、排水溝等の設置・点検、作付地の団地化を行うなど湿害対策を実施し、適切なほ場管理を行います。

目 的	農産物の衛生的な取扱
取組事項	異物混入の防止対策の実施
点検項目	作業（収穫・調製等）中に喫煙や飲食をしない。【全品目】 作業（収穫・乾燥・調製）時に機械のネジや金属片、装飾品等が混入しないよう対策を実施する。【米、麦、大豆】 作業（収穫・調製・選別）時に、使用する器具（包丁、手袋、タオル等）や装飾品等が混入しないよう対策を実施する。【施設、露地、果樹、花き、茶】
解 説	作業（収穫・調製・選別等）中に喫煙や飲食をしていると、タバコの灰や食べ物の一部が、農産物に混入する可能性があります。また、農業機械のネジや金属片、装飾品等も同様です。 異物の混入は、消費者に不快感を与え、クレームに直結する場合がありますので、出荷調製施設等を改善したり、作業上、注意を払うことで、異物混入の防止に努めます。

(1) 農産物の安全性・品質の向上（続き）

目 的	農産物の品質向上
取組事項	カドミウムの吸収抑制対策の実施
点検項目	出穂前後各3週間の湛水管理と土づくり資材の施用等のカドミウム吸収抑制対策を実施する。 【米】

解 説

「食品衛生法」の改正により、米に含まれるカドミウム量の基準が、平成23年2月28日から0.4ppm以下となりました。0.4ppmを超えるカドミウムが含まれる米は、食用として販売が禁止され、廃棄などの処分が必要になります。

カドミウムは、天然に存在する物質であるため、場所により多い少ないの差はあるものの、どこ
の土にも存在します。

本県の水田の場合、**水稻の出穂前後各3週間の計6週間の湛水管理**（田に水を張る）や**土づくり肥料の施用**など、適正な栽培管理を行えば、基準を超える米が生産される可能性は低いので、これらを実践に行います。また、この時期の湛水管理は、胴割粒や白未熟粒などの発生を少なくし、米の品質を向上させます。

水管理・ほ場管理のイメージ

収穫作業でコンバインが沈まないようしっかり行う
 溝切り
 中干し
 3週間
 出穂期
 3週間
 落水は収穫5日前
 米の品質向上、カドミウム吸収抑制に効果
 常に水を張る
 土づくり肥料散布
 6月 7月 8月 9月 秋～春

●穂が出る前後の時期は、常に田に水を張る！

☆カドミウムが吸収されにくくなります。

☆米の品質が向上します

品質の悪い米の割合 (%)
 12
 10
 8
 6
 4
 2
 0
 胴割粒 白未熟粒
 間断かんがい (従来の水管理)
 出穂前後湛水管理
 胴割粒、白未熟粒が減少

出穂前後の水管理と米の品質との関係
 滋賀県農業技術振興センター調査（2006年「コシヒカリ」）

●土づくり肥料を施用する！

土づくり肥料（アルカリ資材）の施用は、**米の品質向上やカドミウムの吸収抑制に効果**があります。

参考情報

●「コメ中のカドミウム濃度低減のための実施指針」

（農林水産省 <http://www.maff.go.jp/j/press/syouan/nouan/pdf/110804-02.pdf>）

(1) 農産物の安全性・品質の向上（続き）

目 的	農産物の品質向上
取組事項	適期収穫の実施
点検項目	適期を逃さずに刈り取る。【米、麦、大豆】
解 説	米の場合、刈り遅れは、玄米の品質を低下させ、胴割粒を発生させます。水稻の収穫適期の判定は、1穂のうち、黄色く熟した籾の割合が85～90%の状態のときです。 品質の低下を防ぐためにも麦・大豆も含めて収穫時期が遅れないように努めます。 
取組事項	収穫後の適切な農産物の取扱
点検項目	収穫後の籾（もしくは粒）を長時間放置せず、速やかに通風乾燥するか、乾燥施設に搬入する。【米、麦、大豆】
解 説	販売用に供する食品は、「食品衛生法」に基づき、清潔で衛生的な取扱いが義務づけられています。収穫後の籾（もしくは粒）は、高水分であるほど、品質の劣化を起こしやすいため、速やかに乾燥させます。
参考情報	●「大規模乾燥調製貯蔵施設の設置・運営に当たっての留意事項について」 （農林水産省 http://www.maff.go.jp/j/seisan/suisin/tuyoi_nougyou/t_tuti_other/pdf/ryui_ziko.pdf） ●「食品のかび毒に関する情報」 （農林水産省 http://www.maff.go.jp/j/syouan/seisaku/risk_analysis/priority/kabidoku/）
取組事項	品質事故の防止対策の実施
点検項目	収穫・乾燥・調製作業の開始前に、各設備の整備・点検を行う。【米、麦、大豆】
解 説	コンバインや乾燥機・籾摺機内部に付着した残存物は、細菌やかびの発生源となり、また別の穀物を乾燥する際の異種穀粒の原因となることから、排出が終わったら、必ず清掃を行いましょう。 また適正な乾燥作業を行うために、乾燥機に内蔵されている水分計の作動状況の確認や補正、乾燥機の定期的な点検を行います。 ●乾燥機などの設備の内部にたまった米くすなどは、清掃し、取り除きましょう。 ※農林水産省「米のかび汚染防止のための管理ガイドライン」   乾燥機内部の米くすやほこり 籾摺機内部の籾がら
参考情報	上記と同じ。

(1) 農産物の安全性・品質の向上（続き）

目 的	農産物の品質向上
取組事項	適切な乾燥・調製の実施
点検項目	乾燥・調製作業は、適正な温度管理、水分管理のもと行う。【米、麦、大豆】 倒伏や病害虫による被害籾、高水分籾（もしくは被害粒、高水分粒）は仕分けして、乾燥・調製等作業を行う。【米、麦、大豆】
解 説	高水分籾（もしくは高水分粒）の乾燥に当たっては、胴割の発生等の品質の低下を防ぐため、初期の送風温度をできるだけ低温にするほか、水分ムラが大きい場合には二段乾燥法※により水分調整しながら仕上げましょう。 また倒伏や穂発芽の発生など品質の低下が懸念される場合には、速やかに収穫作業を開始するとともに、被害籾（もしくは被害粒）については、仕分けして乾燥・調製等作業を行います。 ※二段乾燥法 ・・・・一次乾燥と二次乾燥の間に乾燥機を止めて休止期間（テンパリング時間）を設け、高水分籾と低水分籾間の水分移行を促す方法 参考情報 ●「大規模乾燥調製貯蔵施設の設置・運営に当たっての留意事項について」 （農林水産省 http://www.maff.go.jp/j/seisan/suisin/tuyoi_nougyou/t_tuti_other/pdf/ryui_ziko.pdf） ●「食品のかび毒に関する情報」 （農林水産省 http://www.maff.go.jp/j/syouan/seisaku/risk_analysis/priority/kabidoku/）
取組事項	異品種・異種穀粒混入の防止対策の実施
点検項目	種子袋や育苗箱に品種名を明記し、品種の切り替えは、取り違い・他品種の種子が混入しないようにする。【米、麦、大豆】 田植時における品種の切り替えは、取り違いがないよう苗箱の品種を確認する。【米】 作業（収穫・乾燥・調製）時における品種や作物の切り替えは、事前にコンバイン・乾燥機等の清掃を徹底する。【米、麦、大豆】
解 説	異品種・異種穀粒混入は産地として絶対に避けなければならない問題で、徹底して防止する必要があります。 複数の品種・作物を生産している場合、切り替え時におけるコンバイン、乾燥機等の農業機械内の残粒による異品種・異種穀粒混入の可能性があります。 特に使用する機械の数、作付けする品種・作物の数が多い場合は、乾燥・調製作業の開始前や入れ替え前に各設備の清掃を徹底します。 また、小麦などに混入したそばが、小麦粉あるいは加工品として販売され、そばアレルギーの人が食べるとアレルギー反応を起こす場合があります。そのような事故を起こさないために注意が必要です。 参考情報 上記と同じ。



(1) 農産物の安全性・品質の向上（続き）

目 的	作業者等の衛生管理
取組事項	衛生設備の確保
点検項目	作業者の衛生的な状態が保てるよう、手洗い場所やトイレ等の衛生設備を確保する。 【施設、露地、果樹、花き、茶】
解 説	栽培から出荷までの工程に関わる作業者が汚染源となって、直接的または間接的に農産物を汚染しないよう、衛生的な状態を保てるように、手洗い設備やトイレ設備を確保します。 また、施設の管理者は、作業者の健康管理に努め、感染症の疑いのある場合は、農産物に直接ふれさせてはいけません。 ※農林水産省「生鮮野菜衛生管理ガイド」
参考情報	●「野菜の衛生管理に関する情報」 （農林水産省 http://www.maff.go.jp/j/syouan/nouan/kome/k_yasai/index.html）
取組事項	作業者の衛生管理の実施
点検項目	調製・出荷等の作業においては、手洗いの励行や履物・手袋等の清潔さを保持する等、衛生管理を行う。【施設、露地、果樹、花き、茶】
解 説	調製・出荷等の作業においては、栽培から出荷にかけて、作業者が農産物に直接触れることによる汚染を避けるため、手洗いの励行や履物・手袋等の清潔さを保持するなど衛生管理に努めます。 ※農林水産省「生鮮野菜衛生管理ガイド」
取組例	●作業者はトイレ後には、石けんを用いて手洗いを励行する。 ●履物や手袋など清潔さを保持する。 ●訪問者に衛生上のルールを守らせるために、施設内に明示し、周知する。
参考情報	上記と同じ。

(1) 農産物の安全性・品質の向上（続き）

目 的	設備・容器等の衛生管理
取組事項	栽培・収穫・調製・運搬に使用する農機具・器具類等の衛生的な保管、取扱、洗浄
点検項目	栽培・収穫・調製・運搬に使用する農機具（トラクター等）・器具類（はさみ、コンテナ等）は、常に手入れや洗浄を行い、衛生的に保管する。【施設、露地、果樹、花き、茶】 養液栽培の場合は、培養液が汚染されないよう、器具類の洗浄を行う。 【施設、露地、果樹】
解 説	栽培・収穫・調製・運搬に使用する農機具・器具類等が汚染源とならないようにするために、使用前に洗浄し、衛生的に保管します。  ※農林水産省「生鮮野菜衛生管理ガイド(簡易版)」
参考情報	●「野菜の衛生管理に関する情報」 (農林水産省 http://www.maff.go.jp/j/syouan/nouan/kome/k_yasai/index.html)
取組事項	施設（栽培・調製・出荷・貯蔵）内の衛生管理の実施
点検項目	施設内は、常に整頓・清掃する。【施設、露地、果樹、花き】 製茶工場、製茶機械は茶期の前後に入念に清掃するとともに、常に整頓・清掃する。荒茶加工施設では、食品製造に直接関係のない目的で使用する場合を除き、「飲用適」の水を使用する。【茶】 施設内に廃棄物を保管する場合は、農産物に隣接しない場所で保管する。【施設、露地、果樹、花き、茶】 施設内への害虫侵入を防ぐ対策を行う。【施設、露地、果樹、花き、茶】
解 説	収穫した農産物が、新鮮で安全な状態で出荷されるよう、栽培・調製・出荷・貯蔵工程において適正な衛生管理を行うことが重要です。設備・器具類や作業者の衛生管理はもちろんのこと、作業者の意識向上も図ります。  ※農林水産省「生鮮野菜衛生管理ガイド(簡易版)」
取組例	●施設内の整理に心がけ、清潔に保つよう定期的に清掃する。 ●ほ場作業衣、長靴で包装作業場所には、立ち入らないようにする。 ●野生動物や鳥、害虫などが入らないよう出入口や窓の開閉管理を適切に行う。
参考情報	上記と同じ。
取組事項	安全で清潔な包装容器の使用
点検項目	出荷に使用する包装容器・資材は、農産物の安全性を考慮した素材を選択し、清潔に保管する。【施設、露地、果樹、花き、茶】
解 説	出荷に使用する包装容器・資材は、直接農産物と接触して使用されることから、重金属や化学物質等の溶出による汚染がない農産物の安全性を考慮した素材を選ぶとともに、清潔に保管します。
参考情報	上記と同じ。

(1) 農産物の安全性・品質の向上（続き）

目 的	農産物の品質向上						
取組事項	貯蔵・輸送時の適正な温度管理の実施						
点検項目	収穫後の農産物を貯蔵・輸送する際は、品質の劣化防止のため、適正な温度管理を行う。 必要に応じて予冷等を行う。【施設、露地、果樹、花き、茶】						
解 説	収穫後の農産物の鮮度を維持し、品質の劣化を防ぐために、貯蔵・輸送時は、適正な温度管理を行います。 参考情報 ●「野菜の衛生管理に関する情報」 (農林水産省 http://www.maff.go.jp/j/syouan/nouan/kome/k_yasai/index.html)						
取組事項	凍霜害防止対策の実施						
点検項目	凍害、霜害等の恐れのある地域・時期では、防霜施設等の稼働点検や気象情報等に留意する等、凍霜害防止対策を実施し、適切な被害防止に努める。 【施設、露地、果樹、花き、茶】						
解 説	農産物の凍害や霜害の適切な被害防止に努めます。 取組例 ●果樹 <table border="1"> <tr> <td>霜溜まりの解消</td><td>冷気の停滞による霜害を防ぐため、園地周囲の防風ネットを巻き上げる。</td></tr> </table> ●茶 <table border="1"> <tr> <td>防霜ファン等の稼働</td><td>防霜ファンや散水用スプリンクラー等を稼働する。</td></tr> </table> ●野菜、花き <table border="1"> <tr> <td>被覆資材による保温</td><td>発芽又は定植後の幼苗期は、不織布などのべたがけ等被覆資材により保温し、地温の上昇を図る。</td></tr> </table>	霜溜まりの解消	冷気の停滞による霜害を防ぐため、園地周囲の防風ネットを巻き上げる。	防霜ファン等の稼働	防霜ファンや散水用スプリンクラー等を 稼働する 。	被覆資材による保温	発芽又は定植後の幼苗期は、不織布などのべたがけ等被覆資材により保温し、 地温の上昇を図る 。
霜溜まりの解消	冷気の停滞による霜害を防ぐため、園地周囲の防風ネットを巻き上げる。						
防霜ファン等の稼働	防霜ファンや散水用スプリンクラー等を 稼働する 。						
被覆資材による保温	発芽又は定植後の幼苗期は、不織布などのべたがけ等被覆資材により保温し、 地温の上昇を図る 。						
取組事項	りんご等果実におけるかび毒（パツリン）汚染低減対策の実施						
点検項目	かび毒汚染を低減させるために、傷果発生防止のための丁寧な収穫・出荷、選果段階における腐敗果の除去を行う。【果樹】						
解 説	りんごやぶどうの果汁はかび毒であるパツリン汚染の可能性の高い食品として知られており、パツリン汚染防止対策を徹底することが重要です。						